

平成 18 年度帰国報告会

ハイライト:

- ・帰国報告会
- ・農場視察レポート
- ・私の食農教育
- ・追悼 齊藤克弥元会長
- ・イベント案内

目次:

平成 18 年度帰国報告	1
帰国報告アルバム	2
平成 17 年度決算報告	4
平成 18 年度予算	5
農場視察レポート	6
私の食農教育とのかかわり	8
哀悼 齊藤克弥元会長	10
スクラップブック	12
ハーベストパーティー	13

7 月 2 日（日）大田区民センターで帰国報告会が開催されました。今回はドイツで研修を修了した森田さんの報告を掲載します。

一年間の研修を振り返って

H16／スイス 森田 純子

・南ドイツのリンダウという小さな街で 1 年間の研修を終え今年 3 月に帰国しました。街の脇にボーデン湖という、ドイツ・スイス・オーストリアにまたがる大きな湖があり、温暖な気候を利用して果樹栽培が盛んに行われています。私が配属された農場でも、リンゴの有機栽培とワインづくりをしています。農繁期には季節労働者もありますが、ほとんどを家族で経営しているので、その一員として様々な仕事をし、過ごすことが出来たと思います。



・研修をしていて特に感心したことは、作物を無駄なく活用している点です。特にリンゴは有機栽培であるため出荷できない規格外のものが多く、ファーマーズマーケットで直売したり、ジュース、酒、お菓子などに加工し販売していました。最初は驚きましたが地面に落ちた実や多少傷んだ実も加工に使っていて、工夫すれば食べれるのだからこれが当然なのだと思います。非農家出身である私は農業に携わって初めて、自分がいかに見た目重視の農産物に囲まれていたかということに気付かされました。

・ワインづくりでは、ブドウの栽培から醸造、販売まで全て自分たちで行っています。時々ワインの試飲会を開き、来園者と一緒にワイン畑を散策し、醸造工程を公開し、消費者と信頼関係を築いています。地域に根ざした農場だからこそ出来ることであり、信念を持った農場主がとても格好良く見えました。このような農業経営が今後日本でも増えていくといいなと思います。

・またドイツ人と共に生活をして感じたことは、自分や家族を大切にしていること、仕事と休暇のメリハリがはっきりしていることです。週末は商店も閉じていて、家族や友人たちとただのんびり過ごしたり、散歩を楽しんでいて、そういった生活スタイルが素敵だと感じました。

・早くも帰国して 4 ヶ月が経ち、現在はスイス O G の安田弥生さんのもとで研修をしています。夏場はとにかく植物の生長がはやく、雑草の生命力の強さと人間が手仕事で出来ることの微力さを感じる日々です。安田さんは毎週 25 件の家庭に野菜を配達していて、消費者と直接繋がりをを持った経営をしています。配達先で野菜を待望してくださったり、野菜や料理の話をしたり、やりがいを感じています。

・研修後は未定ですが、農業法人などで直接販売や消費者交流などの仕事が出来たらと思い、平行して就職活動をしています。

平成 1 8 年度帰国報告会

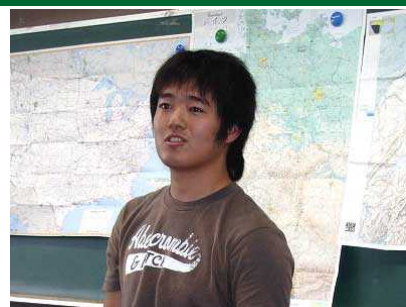


報告に聞き入る参加者



唐澤陽介君（長野／米国 2 年制）

配属先：アイダホ州
Brackett Livestock（肉牛）



宮坂翼君（長野／米国 2 年制）

配属先：イリノイ州
Gilt Edge Farm（養豚）



村田喜重君（北海道／米国 2 年制）

配属先：カリフォルニア州
Sakata Seed America（野菜）

（お詫び）写真を撮り忘れてしまいました



春田耕平君（神奈川／ドイツ）

配属先：Gaetnerei Willmann
（有機野菜）



本間会長の挨拶



森田純子さん（東京／ドイツ）

配属先：Fam. Ludwig Haug
（落葉果樹）



三浦大地君（岐阜／スイス）

配属先：Fam. Markus Buecheler
（複合〔酪農〕）

懇親会アルバム



新旧OBとの体験談に花が咲き



お酒もどんどん運ばれて



至福のひと時を楽しみました

平成 1 7 年度決算報告

自主事業	
期日	項目
7月3日	平成17年度総会、帰国報告会
7月23日	伊藤一男さんを囲む会
8月27日	サマー交流 in 真鶴
8月31日	研修生選考会
10月28日	研修生選考会
10月29日	ハーベストパーティー
11月1日	東京ファーマーズマーケット
11月15日	研修生選考会
12月13日	サンクスパーティー
2月12日	研修生壮行会

参加行事	
期日	項目
6月14日	全国組織会長会議
6月15日	交流協会総会(第1回)
6月24日	米国2年制壮行会
6月26日	米国2年制解散式
10月12日	基金運営委員会(第5回)
11月7日	国際農業者フォーラム
11月8日	ブロック会長会議
1月25日	長野県50周年記念大会
1月20日	畜産シンポジウム
3月5日	欧州、米1、ハワイ研修生壮行会
3月2日	米1、ハワイ研修生帰国解散式
3月7日	臨時全国組織会長会議
3月8日	交流協会総会(第2回)
3月30日	欧州研修生帰国解散式

科 目	決算額	予算額	差異	備 考
<前期繰越金>				
現金	117,799	117,799	0	
普通貯金	432,974	432,974	0	
定期貯金	1,000,134	1,000,134	0	
前期繰越金合計	1,550,907	1,550,907		
<収入の部>				
入会金	0	30,000	-30,000	
会 費	306,000	300,000	6,000	3,000円×102名
受験料	90,000	50,000	40,000	10,000円×9名
寄付金	10,000	100,000	-90,000	
活動収入	53,100	50,000	3,100	内訳は事業報告書参照
雑収入	304	0	304	利子
当期収入合計	459,404	530,000	-70,596	
<支出の部>				
正会員費	100,000	100,000	0	国際農業者交流協会会費
会議費	39,907	20,000	19,907	役員会 6回
通信費	50,010	50,000	10	切手、はがき代等
事務費	11,800	30,000	-18,200	ファイル、封筒代等
選考費	17,640	30,000	-12,360	会場費、謝金等
活動費	266,706	500,000	-233,294	内訳は事業報告書参照
基金拠出金	100,000	100,000	0	
雑 費	1,260	20,000	-18,740	慶弔費、手数料
当期支出合計	587,323	850,000	-262,677	
収 支	-127,919	-320,000		
<次期繰越>				
現金	89,576	50,000		
普通貯金	332,991	180,707		17円(平成17年度分の利子)
定期貯金	1,000,421	1,000,200		287円(平成17年度末の利子)
次期繰越金合計	1,422,988	1,230,907		

正味財産合計 1,422,988 1,230,907

1 7 年度活動費明細

期日	項目	金額	参加費・寄付金	活動費
3月7日	臨時全国組織会長会議	11,000		11,000
6月13日	全国組織会長会議	11,000		11,000
11月7日	国際農業者フォーラム(静岡県)	30,760	12,360	18,400
1月25日	長野県50周年記念大会	20,000		20,000
1月26日	畜産シンポジウム(兵庫県)	70,680	29,340	41,340
7月4日	総会・帰国報告会	62,300	54,000	8,300
7月23日	伊藤一男さんを囲む会	190,800	189,000	1,800
8月27日	サマー交流 in 真鶴	76,584	88,000	-11,416
10月29日	ハーベストパーティー	28,500	10,000	18,500
11月1日	東京ファーマーズマーケット	632,559	531,000	101,559
12月9日	サンクスパーティー	86,048	82,000	4,048
2月6日	壮行会	78,125	58,300	19,825
	小計	1,298,356	1,054,000	244,356

項目	収入	支出
「運命」	33,100	22,350
JAEC関連		
キャラバン活動	20,000	
小計	53,100	22,350
活動費総合計	53,100	266,706

平成 1 8 年度予算

科 目	18年度予算額	17年度決算額	差異	備 考
<前期繰越金>				
現金	89,576	117,799		
普通貯金	332,991	432,974		
定期貯金	1,000,421	1,000,134		
前期繰越金合計	1,422,988	1,550,907		
<収入の部>				
入会金	0	0	0	
会 費	306,000	306,000	0	3,000円×102名
受験料	0	90,000	-90,000	
寄付金	20,000	10,000	10,000	
活動収入	50,000	53,100	-3,100	
雑収入	0	304		利子
当期収入合計	376,000	459,404	-83404	
<支出の部>				
正会員費	100,000	100,000	0	国際農業者交流協会
会議費	30,000	39,907	-9,907	会場費等
通信費	50,000	50,010	-10	切手、はがき代等
事務費	20,000	11,800	8,200	ファイル、封筒代等
選考費	30,000	17,640	12,360	会場費、謝金等
活動費	150,000	266,706	-116,706	
基金拠出金	50,000	100,000	-50,000	推進基金へ
雑 費	20,000	1,260	18,740	慶弔金等
当期支出合計	450,000	587,323	-137,323	
収 支	-74,000	-127,919		
<次期繰越>				
現金	50,000	89,576		
普通貯金	298,567	332,991		
定期貯金	1,000,421	1,000,421		
次期繰越金合計	1,348,988	1,422,988		
正味財産合計	1,348,988	1,422,988		

活動費内訳

期日	項目	予算額
6月14日	全国組織会長会議	10,000
7月4日	平成17年度総会、帰国報告会	20,000
9月30日	ハーベストパーティー	30,000
	サンクスパーティー	30,000
2月12日	研修生壮行会	30,000
1月末	営農研究会	30,000
	組織充実	0
	予備費	0
	合計	150,000

自主事業

期日	項目
7月3日	平成17年度総会、帰国報告会
8月31日	研修生選考会
9月30日	ハーベストパーティー
	サンクスパーティー
2月12日	研修生壮行会

参加予定行事

期日	項目
6月2日	海外派遣推進事業委員会
6月14日	全国組織会長会議
6月15日	交流協会総会(第1回)
6月24日	米2研修生壮行会
6月27日	米2研修生帰国解散式
1月末	畜産シンポジウム、営農研究会
	欧州、米1、ハワイ研修生壮行会
	米1、ハワイ研修生帰国解散式
3月	交流協会総会(第2回)
	欧州研修生帰国解散式
	国際農業者フォーラム

農場視察レポート

ー有用微生物群を活かす生産者ー

米2/S57 牛島 信之

帰国後、3ヶ月の派米協会の20周年事業の臨時職員を経て12年間食品工業用の洗剤メーカーの営業→技術指導員として在籍、その後仲間と洗剤メーカーを立ち上げ7年間技術開発及び技術指導員として活動、3年前に退職し福祉関係の資格を取った後、食品衛生全般のコンサルタント会社に入り、食品加工場及び飲食店の衛生間指導、ISO導入サポート、食品原材料表示サポート、防虫防鼠指導、各種検査及び実験、衛生講習会講師などを行っています。

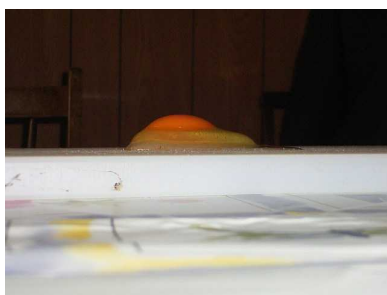
5月中旬に鹿児島、宮崎に有効微生物群を利用した無農薬、減農薬農法に取り組む生産者の視察に行ってきました。食品市場の要求の変

化に伴い、より安全で栄養価の高い食品及びトレーサビリティが求められるため、生産者→各種検査機関→物流→消費者の一貫したグループ形成、そしてそういったグループ同士の相互交流を図っていかうという企画に取り組むことになりました。実際に会社で関わるのは土壌分析や栄養分析、残留農薬などの検査及びトレーサビリティの構築の部分ですが、注目される産地がどのような農業に取り組んでいるのか、手始めに宮崎県の後藤商事という会社が販売する有効微生物群を利用するシステムで営農する農場を視察してきました。

特に印象的だった3農場の例を紹介します。

①ピーマンのハウス栽培：土壌改良と葉面散布に有効微生物群を利用して減農薬栽培に取り組み、反収15～17tを達成。僕は農業を離れて久しいのでこの数字がどんなものか実感はできませんが、その地域では通常の農協指導に従った肥料や農薬を用いる方法では10～12t取れば良い方だということでした。

訪問した1軒では有効微生物群を始めは全て業者から仕入れていたそうですが、現在は自農場で「ぼかし」を作り、種菌のみの購入でコストも低いということでした。訪問した時期は既に収穫最後の時期だったため、状態はそれほどいいものではないということでしたが、結構しっかりしたものでした。この写真の農家では、菌をぼかしで買って5万円／反のコストで土壌消毒なし、反収が11t／反→18t／反と伸びたということです。この効果を指導した地域のリーダーのところではぼかしも自家製のため、菌のメーカーからは種菌20kg1缶しか購入していないそうです。(PS. OB・OGの農場ではどれくらいの反収が一般的なのでしょうか？私は野菜は家庭菜園しか経験がないので想像つきません)



②養鶏場で飼料に有効微生物群を混ぜることで、鶏自身の活性が高まり鶏舎の消毒はもとより雛の導入以後は一切抗生物質等の薬品を使用していない。強制換羽なども行わず卵の質は殆ど低下しないことと卵黄の盛り上がりが高く、餅の焼き網の上をコロコロ転がしても全然壊れないのが印象的でした。また、通常の鶏に比べ腸が長く、糞も臭い

がなく養鶏場であることが分からないほどでした。鶏はケージに飼われているのですが、善玉菌のおかげか至って健康で、廃鶏肉を地鶏料理の店に持ち込んでおいしいと評判の地鶏と食べ比べてみたのですが、肉質が柔らかく美味でした。

写真の鶏は180日齢で、この養鶏場では採卵期間は150～550日齢ということです。僕の印象では白レグたどもう少し目や嘴及びとさかの色が褪せるように思えたのですが、まだ30日齢ではこんなものなのでしょうか？それともこれはいい状態なのでしょう？印象はとても元気です!!

この農場のもう一つの特徴は、掃除をしない。道具を散らかすものぐさとは異なり、農場主のポリシーで「蠅がたかれば蜘蛛が巣をつくり、鼠がくれば猫が住み着き自然の循環に任せておれば悪い状態にはならない」。しかし糞が臭わないので蠅は殆んど寄っていないし7年間で病死は1羽も出していないということでした。残念だと思ったのはこれだけの卵を作っておきながら一般農協に他の普通の卵と同じ価格で出荷しているとのことでした。



③養豚農家で餌に有効微生物群を混ぜて与えていましたが、やはり抗生物質の類は一切使用せずに肉質も微生物を入れる前にくれば上がったと言っていました。特徴的なのは糞尿に殆ど臭いがなく農場に蝇がいないこと。糞尿処理は糞の半分に堆肥にし、半分を別の有効微生物群で浄化処理していましたが、こちらも殆ど臭いがなく驚きました。私自身研修生〇Ｂの養豚農家に住み込みで研修し、堆肥処理場の刺激臭はものすごいものがあつたのを覚えています。豚舎内の写真は手ブレでいいものではありません。写真は豚舎から糞尿が滑り落ちてくる場所です。視察に行った全員がスーツに革靴でここまで入っていますが、まったくそういった場所に行ったような臭いはありませんでした。

その他にもいろいろ視察してみましたが、いずれの生産者も用途に応じた有効微生物群を利用し、業者の言いなりでやっていないこと。特に作物にしても家畜にしても化学肥料や抗生物質に頼り過ぎないで、生き物の活性を高める環境として有効な微生物群を利用している点はなるほどと思い、研修生当時に毎日牛の糞を掴んで臭いを嗅いで、牛の健康状態を見ながら今日やる飼料の碎き具合を調整した日々を思い出しました。

派米研修から帰国した年、つくば博でみたハイポニカ農法で栽培したトマトの巨木もすごかったけど、化学肥料に頼った農法により自力を失った土自体が植物の活性を失わせているという論理に基づき、液肥と温度コントロールにより植物のストレスになる要因を取り除くことで植物の活性を引き出していた。

今回視察した有効微生物群を利用する方法は微生物の働きにより作物及び家畜が受けるストレスを取り除くことで活性を高めている。短期農業労務者出身の赤塚植物園や山田兄の養鶏場のように活性を高める水を利用して同様の結果を得ておられるところもあり、作物の活性を大切にする農業がこれからの市場に求められるものではないかと感じています。話題になっているポジティブリストもこういう取り組みを市場に広げていくことで切り抜けるのではないかと感じています。ちなみに宮崎の有機農法で有名な綾町の町長さんにもお会いしたところ、綾町では更なる活性化のために「なちゅえんす」という静岡の業者と共同で加工用の相場より高めの価格で一括購入契約を結び、冷凍野菜に加工し、一部は加工なしで市場に販売することで生産者のリスク軽減と加工業者の利益確保及び「なちゅえんす」の販売ルートの消費者にはトレーサビリティのとれた商品を提供するという、生産者～加工～流通～消費者まで一環した取り組みに挑戦しているという。

私の所属する会社ではこれからこのトレーサビリティの部分に取り組んでいくこととなります。綾町の取り組みである程度の成果が得られれば和歌山の有機農業では先駆者として有名なパンドラファームさんも取り組むと言っています。

今回視察した有効微生物群のみならず、できる限り有益な農法を検討し、情報を提供できたらと考えています。

ただ私自身は農業から離れ久しいので、諸兄、諸姉の情報をこれからも大いに参考にさせていただきます。

記事はメーリングリスト「〇Ｂ情報」に投稿された文章を元に牛島兄に加筆していただき、画像も提供していただきました。

私の食農教育とのかかわり

J A 東京中央会 鈴木 紀安
米 1 / S 5 1 ・ カリフォルニア

◆はじめに

派米研修から早いもので、30年が過ぎようとしています。私は、学生時代に大学のサークルなどの仲間とともに1年間休学して、カリフォルニアの農業実習に参加いたしました。私は元々非農家ですが、将来は青年海外協力隊にて、東南アジアで何か技術協力でも出来ればと考え、農学系の大学に進学し、サークル活動では北海道から沖縄まで、数ヶ所にて実習を積みました。派米研修にあたり、大学での先輩の指導のもと、強化合宿・自主合宿を終え、晴れてアメリカへと希望に胸を膨らませていたのを今のように憶えています。

サンフランシスコのホテルに到着し、米や飼料作物を栽培している日系人の農家への配属も決まり、現地の大学での農業事情や英会話等のオリエンテーションを経て、実習が始まりましたが、残念ながら当時のカリフォルニアは2年続きの早魃の年で、米の作付けは中止せざるをえない状況でした。折角、米づくりの勉強や実習もし、田植えに向けて準備してきたのに、大変ショックでした。しかし、気持ちを切り替えて1年間やって来られたのも、お世話になった農家のご家族の方々の心遣いがあったからだと思います。

アメリカから帰国し思ったことは、日系人として太平洋戦争、収容所生活、その後の苦難を乗り越えた強い生き方やビジネスに対するフロンティア精神であり、また、作業それぞれに求める効率性でした。特に、機械作業や修理清掃等での事故に大変気を配る注意力の点では何回も怒られたのを憶えています。

今、こうして、現在の職場に勤務できるのも、お世話になった多くの農家の方々や元国際農友会の皆様方のお陰と感謝しています。



JA東京青壮年組織協議会
<http://www.ja-tokyo-youth.org/>

◆食農教育とのかかわり

私が、食農教育など農業体験に深く関わるようになったのは、平成10年に当時の農業振興部に勤務するようになり、その後、JA全中(全国農協中央会)に一時出向の機会に恵まれ、都市農業と学童農園関係の仕事を担当するようになってからです。JAグループでは、平成10年より3つの共生運動(次世代・消費者・アジアとの共生運動)の取り組みを開始し、次世代との共生のなかで、全JAにおいて学童農園の設置を行うことを決定していました。

そのようななかで、当時の文部省に子どもたちの体験活動で、農業体験を含め、初めて予算を組んでもらいました。その後、農林水産省も動き出し、平成14年度からの「総合的な学習の時間」の導入や完全学校週5日制の実施に伴い、両省による連携協議会なども設置され、子どもたちの農業体験学習等について連携が図られ、JA、農家、学校を含め地域ぐるみで「学童農園」を柱とした食農教育が本格的に展開されるようになってきました。

私は、平成11年12月にJA全中から今の職場に急遽戻され、「学童農園」事業を担当するよう指示を受け、JA、農家(JA青壮年部)、学校などの協力のもと「1地区1学童農園設置運動」に取り組み、「学童農園の設置助成要領」などによる予算化(農家に助成)もはかり、毎年12ヶ所ほどで実施しています。この事業も、農家のボランティアによるところが多く、多忙な時期における田や畑の作業への支障、さらには、一部の農作業体験に終わり本当に効果はあるのか、また、地域の農業が理解できたのかなど多くの悩みを抱えながらの活動であります。しかし、各地における、このような小さな活動が積み重なって、地域住民に、ひいては、国民に農業や食の大切さを真に理解してもらえるようになっていくものと確信しております。



◆都会人流・食と農のかかわりに参加して

(株)ベストフーズ代表取締役で、東京国際農業者協会の本間惇会長による公開講座「都会人流・食と農のかかわり」(東京農大オープンキャンパス講座)が6月3日(土)から7月1日(土)の4回にわたり開催され、2回ほど参加させていただきましたので、食農教育の観点から報告をさせていただきます。

◎第2回 6月10日(土)「農の魅力発見」

本間会長より、講座の冒頭に、現在の少子化傾向、世帯構成の変化と個食の増加、食料自給率40パーセントの伸び悩みなどの問題点などが提起されました。

「農は人に良い食べ物を生み出す魅力的産業で、感謝していただく野菜や果物があなたの健康を約束します」

肉類や油脂類の増加、栄養バランスの崩れなどが起きており、食卓は、「オカアサンヤスメ(オムレツ、カレーライス、アイスクリーム、サンドイッチ、ヤキソバ、スパゲッティ、メダマヤキ)」や「ハハキトク(ハンバーグ、ハムエッグ、ギョーザ、トースト、クリームシチュー)などの、パッパ飯になっていませんか。

食生活を見直して、「まごはやさしい(まめ、ごはん、わかめ、しいたけ、いも)」といった食卓にかえていきましょう、と提案されました。また、医食同源と言われるなかで、ベジフルセブン「野菜(350g)5+果物(200g)2の健康7皿」を目指すことが必要と話されました。さらに、野菜や果物の食べるコツや食志向やニーズの変化、売れ筋商品などの説明もあり、実際に、ニンジンやキュウリを横に切ったものを見て、国内産とニュージーランド産を当てるゲームなども行われ、講座等で消費者に話す時も、農産物を手にとって見てもらうことが必要であることなど大変に勉強になりました。

◎第4回 7月1日(土)「農を生活に生かす」

この日は、農を首都圏で成功させている人々の体験談を聞かせていただきました。

- ①安田弥生さんの「風の畑」(神奈川県相模原市で無農薬の農産物を生産し、地元へ供給しています)
- ②石坂亜紀さんの「自然の恵みを楽しむ会」(東京都日野市で年間を通じた農業体験メニューを提供しています)
- ③京都・南山城村での「村おこし好郷曲」[お茶、しいたけなどの特産品を中心に多方面(国際音楽祭などのイベントも開いています)から村おこしを実践されています]

以上、紙面の関係から非常に簡単な紹介となってしまう、申し訳ありませんが、私にとっては、これら実践者のライフワークというか、その方の生き方に深く感銘を受けたところです。

◆むすびに

私は現在、食農教育とは違った仕事を担当しておりますが、この食農教育は自分のライフワークとして引き続き取り組んでいきたいと思っています。実際、私が住む埼玉県の食育ボランティアにも登録したところですが、その時にも、今回の講座を是非活用させていただきたいと思っています。農業体験での子どもたちの笑顔はとってもいいものです。

本間会長の「都会人流」については次号で詳しく取上げます。ご期待下さい。

また、好評のため11月に東京農大での開講が決定いたしました。参加希望者は事務局までご連絡下さい。人数により予算内で受講料の支援を行います。



◆ 次回 開催予告 ◆

第2回 都会人流 食と農のかかわり

開講日: 11月11日(土)

曜日・回数: 土曜日 2回

10:00~12:00、13:00~15:00

会場: 世田谷キャンパス1号館2階211教室

受講料・定員: 4,000円 50名

株ベストフーズ代表取締役

東京国際農業者協会会長 本間 惇

食料自給率1~2%の首都圏に住む者として、食と農をもっと身近に知る必要があります。食生活と農に密着するお話をあらゆるジャンルから分かりやすく検証します。さらに生産者と共生し、発信する事で、日本の農業を元気にする提言をいたします。日常の生活に生産・流通・消費を抱え込み、あなたも積極的に参画することで社会貢献し、豊かな人生を拓いてみませんか。

<カリキュラム>

11/11(土)

①農を身近に知る

農の置かれている環境と消費動向を知り、生活に役立てましょう。

②農の魅力発見

農はさまざまな力を持つ魅力的産業で、21世紀をリードする要です。

③農の不思議発見

農は生態学的にも確立されています。動植物の営みをわかりやすく解説。

④農を生活に生かす

農を首都圏で成功させている人の体験談を聞き、チャレンジする方法を伝授。

哀悼 齊藤克弥元会長 逝く

巨星 克弥さん ありがとう

東京F I A会長 本間 惇



貴方のご突然の病氣をお聞きしたのは、各地に記録的な豪雨をもたらした梅雨の始まりの頃ではなかったでしょうか。情熱をかけたメロン産地も大変な日照不足で悩まされました。しかし、念力が通じ、日頃培われた信頼で生産者の皆さんはこんな時こそと頑張られて、何処にも負けない、とても素晴らしいメロンを例年以上に出荷されました。私は市場人として、「美味しい素晴らしい農産物の産地作りは人づくり」の精神を多く学ばせていただきました。研修生と実習生の違いがあっても、同じ年にアメリカの空気を吸って、帰国後は同業に赴き、齊藤農場の宝物を販売させて頂いたり、夢の実現として築かれた東京F I Aを引き継ぎ、お叱りのご指導をたくさん頂けたことを嬉しく感謝いたします。悲しみの知らせをお聞きした時は、梅雨も上がりとても暑い日でしたが、私は驚きと悲しみで全身に鳥肌が立ち、血の気が引いてしまいました。KATSUYA SAITOUが播かれた種は、お天道様のお恵みと、生産者の汗で立派に大地に育っています。巨星の教えをしっかりと守り、その大地を耕す若人は、残された我々が大切に育てますから、どうぞ安心して天国から愛のオーラをお送り下さい。

突然の訃報にびっくりしています。

渡米前の研修では松山で、帰国後は東京さつき会でいろいろお世話になりました。いきなり英語のスピーチでびっくりしたのを覚えています。日本農業の流通を改革するんだとも。毎年賞状を頂き、これからももっとご活躍されると思っておりましたが、残念です。ご冥福をお祈りいたします。

米2/S44 牛島哲雄

弥生さんの野菜と藤森さんのバラと宮崎さんの梨と私のブルーベリーで「F I Aギフトセットを作れ！」と熱く語っていた齊藤さんを思い出します。齊藤さんと取引のある宮崎の同期とも共通の知り合いと言うことで良く話題に出ただけに・・・寂しい限りです。

スイス/H11 石坂亜紀

齊藤さんを偲ぶ時

柑橘の先輩で、スペンサー農場の開拓者というイメージ。いつも怒っているような話し方で、ストレートな性格が私は好きでした。東京F I Aについても、「みんなが楽しく海外の経験を話せる場が一番大切だ。」と、いつも語っていました。私も同じ考え方です。みんなが楽しく語る場にこれからは齊藤さんがいないこと、とてもさびしく「ピリッ」としないのではと思います。しかし、ピリッとしなないときはいつも齊藤さんを偲ぶ時だと思います。どうか安らかに眠りください。

米2/S57 滝田幸成

本当に”人好きで世話焼きで、話す事が大好きなおじさま”というのが第一印象！

出身組織が違う私にも「同じOB・OGなんだから遠慮なく参加しなさいよ！」と行事の際には必ずお声を掛けて下さいました。3歳の娘も良く構って頂き、真鶴BBQの際是一緒に海で遊んで頂きました。「泳ぎには自信あるんよ！」と沖まで泳いで行ったのは去年の夏・・・あんなに元気だったのに何故？？と思えばキリが無いのですが、きっと何処かで笑いながら見ている筈です、あの先輩は・・・。そんな素晴らしい先輩の存在を後輩達にも伝えていきたいですね。また何処かでお逢いしましょう！

スイス/H3 中村博美

訃報に接して

本当に驚きました。齋藤兄との出会いはハッキリとは思いますが、
さんが確か帰国翌年の15回生を送り出すため東京に行った時だと思
います。

オリンピックセンターから日本青年館に移動し、そこでOBの紹介さ
れた中に居られ、話をしたのが最初の出会いでした。それから9年
間、上京の度に早朝ツアーと称して香川の小亀兄達と紀伊国屋に行
き、案内して頂いた事や、一度和歌山に行くと云われ県内を案内
し、私の所にも泊まっていたいただきましたが田舎で夏の暑い日、クー
ラーも無く寝苦しく朝疲れた顔で起きてこられた事だけはハッキリ
と覚えています。それ以来毎年年賀状の交換だけは欠かさず頂いて
いました。本当に残念でなりません。ご冥福をお祈りいたします。

和歌山県 米2/S51 藤井 栄一

斉藤さんを悼む

独特の言い回しで喋りまくって、嘘か誠か解らないような裏話を
解説され、それが凄く先見の明を持ってのお話だったと言うこと
が度々で、酷く驚かされた覚えがある。最後の斉藤節は昨年の東
京ファーマーズマーケット。私の差し上げた案内のハガキを、だ
から来たんだと言いながらだった。

農産物の価格が上がらないのは景気が悪いから、スーパーや百貨
店が確実に売上の見込める農産物の価格設定を、低く押さえてい
るから。フランスでは、この様なやり方に対して、法的に規制を
する動きがあると聞かされた。どこからこのようなネタを仕入れ
て来られるのか、アンテナの高さに目を見張る思いだった。

年齢的には確か私より少し下だったと思う。しかし派米研修では
1回生で1年先輩。だから斉藤さんが私を呼ばれる言い方が、そ
の時々で微妙に違っていて面白かった。ご自分では意識してい
て使分けおられたのかどうかは解らない。しかし私には場面場
面で、「平井」と「平井君」を使い分けおられた様に感じてい
た。

もの凄いエネルギーで、60数年の人生を駆け抜けて逝かれた先
輩の、ご冥福を心から祈っています。

滋賀県 米2/S41 平井貞夫

斎藤さんの思い出

正直、まだ斎藤が亡くなったとは信じられません。あの元気な人
が、

斎藤さんと話していると、不思議に引き込まれます。茨城から東京
に行って、斎藤さんにつかまって(?)、一日話してるのが、結
構好きでした。毎回、ちょっと楽しみでもありました。なんか、
本当に寂しいです。

茨城県 米2/H12 櫻井雄一

「早藤くんか?今年のできはどんなだい?これからは静岡、神
奈川の柑橘の時代だぞ。地球温暖化の影響で九州、愛媛、和歌
山のみかんの品質は悪くなる一方だ。いままで二流だった神奈
川がこれから必ず一流になる。君も販路を持っているようだ
が、仲間を誘って一割でも、二割でも市場に出して、これから
の流れを実感してみたらいい。いい人間を紹介するから。」こ
こ数年、収穫時期の昼休みの時間に決まって電話が来る。話し
のスケールは大きく、勢いよくまくして、ついつい引き込ま
れてしまう。それでいて農家への心配りも忘れない。斎藤さん
は初めて会った時から変わらない、強烈な印象のエネルギーの
塊のような人だった。

帰国報告会から親しく話しかけてきてくれる先輩方は米2の1
回生小松勝さん、6回生横山公さんだった。先輩方に連れられ
て「さそり会」で初めて会ってビックリしたのが1回生の猛者
軍団(失礼)。群馬の深津さん、埼玉の石川さん、そして東京
の斎藤さん。政治家、企業家、学者と言うより、詐欺師、山
師、手品師、講談師、煽動家、新宗教家の集団で、小松さんが
普通の人に見えた。そんな先輩方と飲んで語り明かすと私も少
しずつ染まってきて長い付き合いが始まった。

猛者集団と思った先輩達が、強い信念とすごい行動力の持ち主
だと判るにつれてその魅力の虜になっていった。その中でも斎
藤さんは学者肌の理論家で、とことんやり込められてしまう。
「派米研修生」の繋がりを大事にし、それを農業経営、市場流
通、消費者理解まで展開して、仲間を集めて実践した本当の意
味での農業理解者であり、指導者だった。

多くの仲間たちに送る年賀状いっぱいに世界情勢から農業情報
までを盛り込んで、年頭から引っ張っていった。豊富な
情報と人脈を誰のためにも使ってくれた。いつも日本農業の未
来を熱く語ってくれた。

そんな外に熱い斎藤さんも、やさしい本音を話すときがあっ
た。大切な千恵子夫人と一粒種の純子ちゃんとの温かな生活の
ために「体を丈夫に戻すんだ。そしてもう一度皆と一緒にひと
花咲かせるんだ。そんな時は頼むよ。」これが4月に斎藤さんと
話した最後の電話での会話でした。

もう、斎藤さんの声は聞けない。あの豪快な話は聞けない。で
も、その遺志は継いで行こう。千恵子夫人も会社を引き継いで
いてくれる。純子ちゃんも生前の約束通りにイタリア留学の準
備をしている。そして私たちも「研修生の仲間」の絆を大切に
して、これからの日本農業のさがけとなる活動をして行こう。
斎藤さんは私達の心につつまでも生き続けている。一緒に
やりましょう。前に向かって豪快に。

神奈川県 米2/S52 早藤義則

研修から帰国した年の8月斎藤さんがかつて勤務していた仲卸の「紀伊国屋」さんで2ヶ月ほどバイトをさせてもらいました。夜中に果物
を集め指定の場所に指定の数だけ置いていく、という仕事です。あの頃はまだ「大田市場」もなく秋葉原で下車して高架下の神田市場へ通
いました。確か夜10時頃から朝6時までの勤務だったように思います。夏だったのでスイカやブドウ、桃、ナシなどを運んでいました。
スイカやナシはとても重かった・・・。2ヶ月が過ぎると慣れない仕事と重労働で首のリンパ腺が腫れてしまって白血球の数が急上昇して
しまい、あえなくリタイア、斎藤さんにも迷惑をかけました。

まだ農友会と派米協会が一緒になる前、斎藤さんが関東近県のOBに呼びかけて作った「さつき会」という会がありました。夏になるとど
こかのOBのところでバーベキューを楽しむ、そんな集まりでした。神奈川の小松兄、山梨の五味兄、群馬の観光リンゴ園でしたか、遠い
記憶でどなたの農場か思い出せませんが・・・。みんな初めて会う人ばかりなのに「研修生」というだけですぐに楽しい会話が始まるの
は、今も昔もかわりません。昨年「サマー交流」を真鶴の小松兄、湯河原の早藤兄に協力していただいて開きました。この催しはまさに
「さつき会の精神」を引き継いで開催したものです。もちろん斎藤兄にも参加していただき、昔のように海で泳ぎ、帰ってきたばかりの若
者と語り、OB・OGならではのいろいろな立場の人との交流を楽しみました。今年は事情があって開催できなかったのですが、一番こ
のイベントを楽しんでもらいたい斎藤さんが亡くなってしまい淋しさがこみあげてきます。

まだまだこれから「人生の先達」として、アドバイスをいただきたいことがたくさんあったのにあまりにも突然逝ってしまわれて・・・。
斎藤さん、たくさんのご本当のありがとう、時々そちらからメッセージをお願いしますね。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

米2/S53 村田正

スクラップブック

農家の嘆き お天道様の怒り

米 1 / S41 本間 惇



日本農業新聞 コンパスより

想像を超えた豪雨や熱波が世界各地に同時多発的に発生し、恒常化されてきているところに問題があり、3,000~4,000m級アルプスの氷壁が溶けて崩れているから恐ろしい。

立て続く台風被害で九州四国地方の今冬から春作への影響も心配される。しかも灯油が欠かさない西南暖地の生産者は、原油の高騰で昨年も泣かされたが、この冬はその比ではないし、運賃や資材も大幅アップをせざるをえない時、販売価格への反映を関係者はどう考えて受け止めてくれるのだろうか。

どんな農業よりも有効な殺菌力を持つお天道様が顔をを出してくれない長雨と日照不足で植物の根はもちろん人々の心も腐り狼狽した。この際、白日のお天道様とともに検証をする必要がある。

特に天与の手数料収入を当てにして価格高騰をあおった卸売り会社と長年安売り合戦のツケを農家に廻してきた小売業界や国産が不作になると海外の輸入農作物に走る外食産業、さらには、日本の気候風土と作柄では、有機農作物とポジティブリストの飛散（ドリフト）対策が極めて難しい事を認めたくないお役所と遺伝子組み換え農産物が世界のすう勢とならんとしている時代に、アレルギー的にとらえ、農業散布と辛い農作業が減らせる効能があることを知らしめないマスコミや指導者たち。

そして「もったいない、ありがたい」を忘れて、食品の残さを減らすどころか、規格や姿・かたちにこだわり過ぎる現代日本人には、世界で穀物自給率 124 番目の仕打ちが廻ってくることを知るべきだ。

市内よりも高速道路内の給油所が安いニュースで列を成したり、自給率 0% に近い石油をたいて作られる農作物を安く食べようとするのではなく、お天道様の恵みでおいしく作られる作物を感謝していただく生活に変えなければいけない。

農業の地球環境保全に果たす役割をアピールし、工夫と努力が報われる日を楽しみに頑張ろう。

ベストフーズ社長 本間 惇

■編集後記

8月にノルウェーのオスロ近郊ハーマルで開催された国際農業ジャーナリスト連盟（IFAJ）の世界大会に参加しました。欧米を中心に200名ほどのジャーナリストが集い1週間にわたりノルウェーの農業を取材しました。日本からは来年IFAJ日本大会がアジアで初めて開催されることもあり30名近くのジャーナリストが参加しました。スイス研修でお世話になっている兼坂さくらさんとも一緒でした。短い期間でしたがアメリカとは違った農業が実感できました。ノルウェー農業を視察して思ったことは、

1. 伝統、文化を大切にすること
2. 地域にあった持続可能な農業を営む
3. 環境・景観保全としての農業の価値を社会全体が認識している
4. 農家自身が農業の社会的役割を常に考えている

大きくまとめればこんなところでしょうか。

「適地適作」という農業の基本をあらためて考えました。「高く売れるものを作る」というベクトルが、「人の作らない新しい品種、変わった品種」という方向に向かいがちな日本の農業は、ノルウェーで出会った農家に比べるとなんとなく「いつも気ぜわしく」見えてしまいます。日本人はそんなに「新しい物、変わった物」ばかり求めているのでしょうか？

日本人として「あたり前の物をあたり前に食す」には「国民に十分な食糧を供給する」という意味での農業と伝統文化を伝えると言う意味での農村、そして国土の環境保全と言う意味での山間地農業などを、はっきりと意識した施策と営農、国民への理解が必要だよなあ・・・と感じた美しいノルウェーの旅でした。

来年9月にはいよいよ日本大会が開催されます。世界中の農業ジャーナリストが日本農業の取材にやってきます。海外経験豊富なOB・OGの協力がかせがないイベントになるでしょう。「黄金の国・ジパング」の世界に誇る伝統と文化を農を通じて発信するまたとない機会です。今後も情報をお伝えいたしますので、ご協力の程、よろしくお願いいたします。（村田）



黒スグリの収穫風景

— 編集発行 —
東京国際農業者協会
〒144-0052
大田区蒲田5-39-2-6F
(社) 国際農業者交流協会内
TEL:03-5703-0254
FAX:03-5703-0255
E-MAIL: fia@owl1.owls.co.jp
発行責任者：村田 正

キンモクセイの薫る山すそで

ハーベストパーティーのご案内

今年もハーベストパーティーの季節がやってまいりました。今回は都会の喧騒を飛び出して、神奈川県湯河原町の早藤兄のご紹介で、梅の名所として名高い湯河原町幕山公園で開催することになりました。湯河原の町が一望できる幕山ハイキング、早藤兄ご自慢の流しそうめんなどイベントも盛りだくさん。暗くなったら早藤兄のご自宅に会場を移動しての二次会(?)もあります。さらに宿泊希望者には地元の穴場の宿をご紹介します。いつもの通り気楽な仲間の集いです。ご家族、ご友人をお誘いの上、ご参加下さい。お待ちしております。



開催日：9月30日(土)

開始時間：午後12時

会場：湯河原町 幕山公園

所在地：神奈川県足柄下郡湯河原町鍛冶屋
アクセスについては裏面をご覧ください

参加費：3千円(中学生以上)

申込締切：9月20日(水)

◆お願い◆

当日、会場の準備をお手伝いいただける方は午前11時までに集合してください。
恒例ビンゴ大会をおこないますので、各自「賞品用ギフト」をご用意下さい。
東京FIAでディズニーランドのチケット他、豪華賞品を用意します。
食材、飲み物などの持込みは大歓迎です。



ハーベストパーティー
参加申込書

お名前

連絡先

☐ 参加します

☐ 宿泊希望します

☐ 参加できません

該当する枠内に
レ印をつけてください

男性

女性

子供(小学生以下)

人

人

人

担当：足達

e-mail adachi@jaec.org

TEL：03-5703-0254

FAX：03-5703-0255

東京都大田区蒲田5-39-2-6F(社)国際農業者交流協会内



箱根登山バス時刻表

平日					湯河原駅	停留所
鍛冶屋					天保山經由	真鶴駅
6	02	32	49			
7	00	15	30	45	12	55
8	00	20			35	
9	00*	30			20	
10	00*	25	55		42	
11	30					
12	05	34			22	
13	10	50			25	
14	15	46*			30	
15	18	50*			35	
16	30	55			45	
17	24	50			35	
18	20	47			40	
19	15	36				
20	07	48				
21	10					
22						

幕印＝幕山公園行

35101-03
年月日改正

アクセス

■ 電車・バス

J R東海道本線湯河原駅より箱根登山鉄道バス鍛冶屋行約10分、森下公園前バス停下車、徒歩約30分
9時と10時に幕山公園行きがあります。こちらで終点まで行くと5分ほどで目的地です。

11時半頃、湯河原駅に送迎車を用意します

■ マイカー

東名高速道路厚木ICより小田原厚木道路小田原西IC下車、真鶴道路経由約10分または、東名高速道路沼津ICより熱函道路経由約10分
※週末は周辺道路が混雑するため、なるべく公共交通機関をご利用ください。【駐車場】有／300台／無料

■ 宿泊

湯河原の素敵な宿を1泊朝食付き6千円くらいでご紹介いたします。ご希望の方は申込書にご記入下さい。